

TEL 233 340 000  
FAX 224 313 684  
Email gakko@jpschool.cz

# VLTAVA

## 学校教育目標

「自ら学び 共に学ぶ 豊かな心と国際性あふれる たくましい児童生徒の育成」

## 目指す子ども像

「かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子」

## 卒業式 式辞

校長 齊藤 仁

厳しい冬が終わりプラハにも春の訪れが感じられる本日、在チェコ日本国大使館参事官古郡徹様をはじめといたしましてご来賓のご臨席を賜り、第三十六回卒業証書授与式をこのように盛大に挙げていくことに心よりお礼申し上げます。そして、卒業生のご家族の皆様へ、心からのお祝いとお慶びを申し上げます。また、本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただきましたことに対しましても、心より感謝申し上げます。立派に成長した卒業生を、皆様とともに送り出せますことに私ども教職員一同皆大きな喜びを感じております。



【感謝の気持ち】 さて、今、卒業証書を手にした五名の小学部卒業生と一人の中学部卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この卒業証書を授与するという儀式を通して、三つの大切なことに気付いてほしいと思います。

まず一つ目は、感謝の気持ちです。皆さんが小学校一年生から今まで体もそして心も大きく成長できたのは、家族の方々の深い愛情があったからです。皆さんをいつもそっと見守り、時には厳しくしかり、世界中のだれよりも皆さんのことを本気に考えてくれるお母さん、お父さんに心から感謝の気持ちを伝えてください。また、これまで様々な場所で自分を守り育ててくれた方々、自分を支えていただいた方々も思いおこしてください。この節目の時に、感謝の気持ちをしっかりと伝えてほしいと思います。

【自分との出会い】 ふたつ目は、自分との出会いです。プラハ日本人学校には、三つの出会いがありますが、今日はもっとも大切な自分との出会いの一日です。この後、自分の成長の足跡をここにいるすべての人に伝えてください。言葉をひとつひとつ選び、丁寧につなぎ合わせて、シンプルに、でも聞く人の心に届くようにメッセージを考えるのは大変な準備だったことと思います。プラハ日本人学校の卒業式は、人数は少ないけれども、卒業生のことをみんなが知っている卒業式です。そして、卒業生が自分のことばで自分の成長を伝えるという授業でもあります。つまり、今日の先生は、卒業生自身です。人に何かを伝えよう、誰かに教えようとする作業が自分を最も成長させるのです。今日のメッセージには、仲間や先生との出会い、チェコとの出会い、そしてこうした出会いを通して気づく自分との出会いで彩られていることでしょう。この後、三つの出会いについて卒業生とともに思いを巡らしてみたいと思います。

【努力】 三つ目は、努力です。卒業するということは、過去や思い出からの別れでもあります。新たな未来に向けて、前へ前へ進むという決意の時でもあります。の学校を離れていく六年生と中学三年生は、これから新たな世界へと向かいます。不安と希望の中で、最初は手探りでしょうが、プラハで鍛えられた分の力を信じ、ひたむきに努力してください。そして、六年生の卒業生でラハ日本人学校の中学部に進級する人たちも、新たな世界へ飛び込むのだという決意をしっかりと持ってください。小学校から中学校へ、中学校から



校へのステップで大切なのは、ただただ努力することです。くよくよしないで、しっかり前を見て進んでください。勉強は難しくなり、わからないことやできないこと、苦手なことがたくさん出てきます。でも、負けてはいけません。毎日の努力です。結果から学ぶことよりも、努力したことから学ぶことの方が多いです。そして、つらいとき、苦しいときには、歩いていく道はきっと違うけれど、同じ空を見上げて、この地球のどこかで、みんなはプラハにつながっていることを思い出してください。

最後に、卒業生の皆さんの新たなる旅立ちに、限らない発展とご健康、そして幸多かれと祈念し、式辞といたします。

## ◇平成28年度 プラハ日本人学校卒業生

小学部児童	荒木 さん	飯塚 さん
	高橋 さん	鳥居 さん
	東 さん	五名
中学部生徒	藤原 さん	一名



## ◇転出児童生徒の紹介

小学部1年	土屋 さん	
小学部2年	石原 さん	小学部2年 高橋 さん
小学部2年	長谷川 さん	小学部2年 米川 さん
小学部3年	尾崎 さん	小学部3年 三田 さん
小学部4年	影久 さん	
小学部5年	長谷川 さん	小学部5年 米川 さん
中学部1年	清水 さん	

## 帰国を前にして 離任者からのお別れの言葉

今年度は、2名の派遣教員がプラハ日本人学校を去ることになりました。派遣教員からのお別れの言葉です。

教諭 木村 明子

3年前の着任式で、私は歌を歌いました。その後の中学部集会では手品をしました。何か印象に残るものが必要だと考えていました。今では、日本での新しい生活の心配が必要となっています。プラハの生活が自分の日常であり、日本人学校の生徒が私の生徒でした。こんな気持ちになれたのも、温かく迎え入れてくれた生徒のみなさん、影ながら支えて頂いた保護者の皆様のおかげです。心穏やかに、楽しく過ごせたことに感謝します。本当にありがとうございました。

教諭 浜田 健一

チェコ・プラハに住んでいるということとプラハ日本人学校に勤務しているということは全く同じではないと思って三年間過ごしてきました。前者は一人の「異邦人」としてどれだけの体験ができるかということであり、後者は学校運営のもと、日本の学校文化の中でチェコの異文化体験もしながら学力をつけるということが主な仕事でした。自分なりに共々に充実していたと思っています。さようなら。